

三国港 沖合底引き網漁船
新造船 第一田井丸が就航

4 月 25 日、沖合底引き網漁船の新造船・第一田井丸（総トン数 19 トン）が、大漁旗をなびかせ乗組員の家族や関係者が集まるなか、三国港（石川県坂井市）へ入港し、お披露目された。

有限会社藤島漁業の第一田井丸は、第五十八田井丸の代替船として、石川県七尾市の有限会社鳥毛造船所で建造され、三国港機船底曳網漁業協同組合の所属船の中では、令和元年に建造された栄吉丸以来、6 年ぶりの新造船。

有限会社藤島漁業の代表取締役を務める漁労長の藤島正登さんは「漁船員の後継者確保が難しく厳しい状況だが、三国港の底引き網漁船を盛り上げたいとする思いから建造にこぎ着けた」と語る。

また藤島漁労長は、「米国とイランの武力衝突からの中東情勢の緊迫化により、燃料油価格の高騰や漁業資材なども上昇し、最新のエンジンや漁労機器を備えた新造船は、建造費用もさることながら、船を維持していくことが大変である。しかし、何よりも事故が無く、安全操業を第一とし、乗組員や関係者の皆さんの期待に応えられるように精一杯頑張りたい」と、お披露目に集まった人たちに意気込みを語った。就航にあたり三国船員会からも乗組員の安全と大漁の願いを込め大漁旗が寄贈された。

本船は漁具の積み替えなど、準備を終え 5 月 6 日に出漁し、甘えびをはじめとする魚介類を狙い操業している。

「海員だより」